

生徒から教えられた人を勇気づけ励ます心

倉敷市立西中学校長 松本一郎

野球部が中国大会への出場を決める正念場の一戦で、このようなことがあったという。その日のチームは、前半でいくつものエラーを重ね4点を失った。マスカットスタジアムの雰囲気は、生徒たちにとって、大きなプレッシャーとなったのかもしれない。まさに、浮足立っていた。しかしその中でも、ベンチからは、「できる」「いける」「大丈夫だ」と声が出ていたと監督の先生が教えてくれた。中盤になり、後攻めだった本校のキャプテンSさんが、監督に「先生、円陣組んでいいですか？」と言った。

その円陣でキャプテンは、「わいらは、下手くそだ。下手くそなわいらが、最後まであきらめん野球見せてやろう。」と言ったという。そこからチームは、4点を取り返した。前半の緊張感を、ものともしない一撃であった。この中に、たくさんのメッセージが込められている。チーム全員が下手くそだと、自分も含めて決めつける言葉は、エラーをした選手を勇気づけた。そして、最後まであきらめず勝とうという将来への希望と、それが「自分たちの野球である」ことを示そうと呼びかけている。短い言葉ではあるが、これだけチームを奮い立たせる魂のこもった言葉があるだろうか。一人ひとりが、すべてを自分自身に引き受け、このピンチを跳ね返そうと奮闘した素晴らしい生徒たちに、教えられた瞬間であった。

野球部のキャプテンでキャッチャーのSさんからは、他にも深く教えられたことがある。ピッチャーにボールを返球するとき、彼はいつも、大きくうなずきながらボールを返す。マスクが大きく上下に動くので、観客席からも分かる。私は、彼の行為が、チームと観客を大きく勇気づけていると思い、体育会の練習中の休憩時間に、S

さんに尋ねた。

「あなたは、いつも大きくうなずきながらピッチャーにボールを返していますね。あれには、どういう意味があるのですか。」(相手のすばらしいところを取り上げ、その理由を問う「成功の責任追及」という解決志向の質問の一つ。)

彼は少し考えて、「K君(ピッチャー)が投げるボールは、ボールもストライクも、すべてよいボールだということを伝えるためにやっています。」と答え、隣にいたKさんが、ニコニコしながら聞いていた。

またまた、生徒に深く教えられた。私は野球をよく知らないし、ストライクがよいボールで、ボールは悪いボールだと思い込んでいたので、Sさんの言葉はとても新鮮だった。よくよく考えてみると、マウンドの上で、全力を振り絞って投げるエースのボールに、よいも悪いもない。あなたが一生懸命投げているボールは、すべて素晴らしいとエールを送っていることが理解できた。彼のマスクは、投手を、チームを、観客を、すべての人々を勇気づけ、励まし続けていることに気付いた。彼は、きっと、これから出会う多くの人々を勇気づけ、励まし続けることだろう。

「先生は、校長先生ではなく、担任の先生のように、廊下で会うと毎回話し掛けてくださったり、こんな自分を評価してくださったりして、自分はとてもうれしかったです。ありがとうございました。これからも頑張ってください。～Sより～」卒業の日、Sさんが私にくれたメッセージカードである。

私のことを、心から勇気づけ、励ましてくれたことに感謝し、私もSさんのようになりたいと思った。